

USHA JAPAN 第6回総会議事録

開催日時：2024年9月21日(土) 15:00～16:10

開催場所：関西医科大学, Zoom

議長：酒井

書記：苗村

出席者：酒井, 神崎, 富田, 苗村 (現地)

小野, Prakash, 河田, 岩國 (Zoom)

(順不同、敬称略)

第6回総会開催時に、機材トラブルが発生した為会長が議長を務めた。

1. 報告事項

1) 2023年度活動報告(酒井)

ネパールでは流産や死産、妊娠合併症など周産期の健康課題をもつ女性が若い世代であり、周産期アウトカムが改善されていないことが問題視されている。2023年度より開始された国際科研によるネパール現地調査では、山間部や農村部の母子を対象に栄養課題の解決に向けた支援やエンパワメントの向上を目標とする支援が行われている。ネパールでは「病気になってから受診する」「病気になり悪化してからでないと病院に行かない」等の意識が根深く、健康の維持増進のための一次予防への意識が未だ高いとは言えない現状にある。しかし一次予防の普及を目的とした研究と、ネパール保健省の今後の目標は一致しており、ポカラ大学やトリブパン大学が提携した研究活動の継続と、我々の専門分野で予防医療に対する意識が高まり、方策が発展することを目指す。一方で母子保健や女性支援だけでなく、当団体は、一次予防の視点で、来日前後のネパール人に向けた健康教育を行うために媒体の作成やホットラインの設置等、活動を積極的に行っている。今後も力を合わせて取り組む予定である。

2) 2024年の現地・国内の活動報告(酒井・河田)

国際共同研究強B(2024年)の補助金を受けネパール現地で介入研究が展開されている。家族の健康を守ることができる女性の育成に向けて思春期女子を対象に栄養課題の予防に関する健康教育を継続的に行っている。(酒井)

一方日本に在留するネパール人の特徴としては、妊孕世代にある青年期前期が多くを占めており、日本の労働環境の厳しさから、心身の不調をきたしたり性に関する課題を抱えやすい。不適切な解雇や差別等の不当な扱いや、技能実習生の堕胎罪・乳児の死体遺棄事件が問題視されている。そのような背景を受け当団体は、包括的性教育の実施や妊娠・出産・育児に関する相談先の情報提供などを積極的に行ってきた。加えて、経済的安定の確保や性的

健康の向上を目的にさらに活動を拡大する。在留外国人の性と生殖に関わる健康課題を概観するために文献検討を行いウーマンズヘルス学会へ投稿することを予定している（河田）

3) 補助金獲得や会員獲得に向けた活動内容（神崎）

2023 年度は企業が主催するクラウドファンディング事業に採択をされたが、当団体と事業の方向性と主旨が異なった為、辞退の判断を行った。

当団体の活動内容を更に広範囲なものにするため、補助金獲得に向けて数か所の財団を対象に申請を行い、現在結果待ちである。

4) 健康教育媒体作成の進捗（河田・苗村・富田）

性の健康、生活のマナー、異文化適応の 3 つの視点から媒体を作成し、性の健康・生活のマナーに関する媒体は当団体HP内で内容を公開している。

資料は文法や言葉のレベル、文章の長さに配慮がなされたやさしい日本語で作成され、イラストの多用やルビの挿入、ネパール語による音声入力を行っている段階である。実際にあった事件やトラブルの内容を参考に資料を作成しており、相談窓口やホットラインに関する情報提供を行っている。

5) ホームページの改訂とSNSにおける発信（苗村）

2023 年 11 月に発生したネパール地震に関する情報発信を目的に、「ネパール地震について」のページを新たに作成し発信を行った。また、新たに寄付ページや活動報告欄、最新のお知らせ欄を設ける等ホームページの改訂を行った。開設後のページ内では在日ネパール人の日本企業への就職状況や、技能実習生支援団体 HANAMIZUKI の活動内容、動画媒体作成における進捗状況等を掲載した。

在留ネパール人は青年期の人々が多くを占めており、日常に必要な様々な情報の収集は携帯の SNS を通じて行われている。そのような背景を踏まえ、当団体はInstagramのアカウントを新たに開設し、HPの普及とともに当団体の活動内容のアピールを行っている。

5) HANAMIZUKI の活動の現状（Prakash・小野・酒井）

日本に入国するネパール人は増加傾向にある一方で、日本の文化が理解できない、馴染めない等の適応への困難を経験する者も多く存在している。HANAMIZUKI では来日前のネパール人を対象に日本文化やマナーについての授業を行ってきた。そこで新たに内定者研修のコースを設置し、来日後のネパール人が困難を経験する場面や具体的な対応策等の情報の提供を行う。これまで HANAMIZUKI の授業はオンラインを通じて行われ、遠方にいる学生や自宅で授業を受けたい学生の負担軽減に努めてきたが、対面授業を導入したことで参加率が上昇し現在では対面授業を多く取り扱っている。授業参加率に向けた少しの工

夫や授業の拡充により、日本で生活しやすくなるだけでなく職場への適応も促進され、問題解決能力が向上し、転籍率の低下や帰国者の減少に貢献できる可能性があると考えます。HANAMIZUKI の支援により日本語能力試験の合格者・来日者は増加しているが、日本企業就職の競争率は上昇している為、引き続き学生のニーズを収集しながら支援を行っていく予定である。(Prakash)

当団体と HANAMIZUKI の連携に関しては送り出し機関である HANAMIZUKI と協力団体としての USHAJAPAN が互いの役割を認識し、HANAMIZUKI の事業に協力するなどしながら相互関係を築き連携を強化していく必要がある。(小野)

多文化共生社会の実現に向けて、日本人も支援を通して学ばせていただく立場にあることを強く認識し、協働していく必要がある。今後も HANA

MIZUKI の広報を積極的に行うとともに、互いに関心を持ちながら、有意義な活動を目指していく必要がある。(酒井)

6) 2023 年度 2024 年度会計報告 (神崎)

別紙資料参照し発表がなされた。

2. 審議事項

1) 当団体会員の年会費用に関して (神崎・酒井)

会員年会費を、現行の金額を役職や状況に応じて設定する必要性について定義された。本審議では結論が出ず、検討課題として今後定例会で引き続き審議し決議することとなった。

2) 2024 年度予算案

具体的な内容については、今後策定していくことで承認を得た。

3) 当団体の法人化について (小野・酒井)

当団体の活動内容拡充に向けて、法人化手続きを視野に入れ予算を組む必要があるのではないかという意見があった。定款の作成や専門家への依頼費など再度計上し補助金獲得の取り組みとともに慎重に検討していく事項である。(小野・酒井)

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024 年 9 月 21 日

議長 酒井 ひろ子 
議事録署名人 富田 英里子 
議事録署名人 小野 一男 